

# 特許切れパッケージ デザインの活用法

(株)エル・シー・シー

社長 占部 聡 長

## 「クリエイターから サーチャー時代へ」

最近、話題になった特許係争が米国でありました。ミノルタが自動焦点の特許においてハネウエルに負けたことです。それも会社を赤字に追い込んだほどでした。日本の紙器・段ボール業界ではあまり特許係争は聞きません。それは受注産業という特性と、また表面化しないのかも知れません。新しいアイデアの箱を考え出した時、それが他社の特許に侵害しないかということは重要です。クライアントも採用に際して、今後その保証を求めましょう。

特許法の精神のなかには新規の発明者には一定期間その独占を許し、それ以降は自由に誰もが利用できるというものがあります。また、紙器・段ボールのデザインはIC技術に比較して技術の陳腐化ということが少ないのです。したがって私は現在のデザインの権利関係を調査するより、古い権利の切れた類似の技術を利用する方が賢いと思います。

私はかつて2年間、紙器の営業に従事し、いろいろなアイデアを考えました。しかし、ものになるものはありませんでした。ある時、虎の門の特許庁の万国資料館に行き、過去の特許公報を見てガックリしました。それは考えることの労力よりも、調べて、期間が過ぎた良いものを失敬した方が楽であることが分かったからです。クリエイティブ（創造性）ということは耳の響きに良いですが、一度、万国資料館に行き公報をめぐれば、どんなクリエイテ

ィブな人も、その自信は揺らぐでしょう。クリエイターであろうとする者は、まずその前にサーチャー（調査マン）でなければなりません。その後、5年間特許調査にたずさわりました。そして、ますますそのことを確信しました。すなわち温古知新（古きをたずねて新しきを知る）です。

最近、パッケージのコンテストなどで入賞したのを見ますが、入賞者が万国資料館に行き自分のアイデアをチェックすれば、少なくとも半数の人が類似の特許公報をみてビックリするでしょう。

## 「USP229類」

現在の万国資料館は新築で昔に比べスペースに余裕があり、また開架式なので利用者に非常に便利になっています。初心者でも指導員が丁寧に教えてくれます。ちなみに政府の職員の中で一番親切で対応の丁寧なのは特許庁の職員です。これは伝統的なものです。

万国資料館は宝の山なのです。東京地区の人は虎の門の特許庁の2階の万国資料館です。関西地区の人は大阪天王寺の夕陽ヶ丘図書館内にあります。この2個所の優れている点は公報が分類別になっている点です。そしてわれわれの業界にとって良いことは米国特許明細書（USP：UNITED STATE OF PATENT）が分類別に保存されていることです。私がまだ紙器メーカーに勤めていれば、こんな「おいしい話」を誰にも教えないのですが、宝の山を教えるのは現在の仕事が直接関係ないのと、現在デザイン業務に従事している人達が無駄な努力をしているのを見

て、気の毒に思っているからです。

米国の特許がなぜ良いかという点について述べてみたいと思います。

①分類体系の変化が少ない。長期間にわたって1つの分類で検索可能。

②図面がきれいで丁寧で分かりやすい。展開図がほとんどのものに付いているから、寸法を入れてCAD/CAMに打ち込めばすぐに完全なサンプルが可能になる。

③引用文献 (REFERENCES CITED) がたくさんあり、孫引きが可能である。引用文献とは審査官が審査の過程で関連の参考にした特許、文献を記載したものである。最近の日本でも記載するようになった。これらは数十年記載して効果の出るものである。

④少なくともパッケージデザインでは日本より15年以上は先行している。その結果、米国の特許の期限切れのものを利用できる。日本の公報では権利期間中のものが多い。

⑤米国の最近の特許でも、日本に高い費用を掛けて出願していない場合が多い。出願しないことは権利放棄である。

⑥私の5年間の特許調査の経験でも、日本で権利化しているものでも、米国の類似の特許で逃げられなかったのは

2~3件であった。

⑦1960年代は「アメリカン・ドリーム」の時代で基本的なアイデアが実に多く出ている。出願件数も他の時代の2倍はある。また戦前の公報でもすばらしいものがある。日本では貼箱、木箱の時代である。戦時中の米国公報を米国特許庁が敵国日本に送ってくれていたのである。1960年代の初期は1ドル360円時代で渡米に制限があった。当時渡米した人は米国でおもしろい紙器を日本に持ち帰り、日本特許庁に出願した人がいたと聞く。日本のこの分野の審査官はUSPを見ないから、よく似たアイデアが10年遅れて公告になっている。

⑧特定の調査項目がなくても、「何か良いアイデアはないか」と公報を「流し読み」してみる。必ずヒントになるものがある。

USP 229類とは「ENVELOPES, WRAPPERS AND PAPERBOARD BOXES」すなわち「封筒、包装紙、板紙の箱」です。「紙製の容器」と考えてよいと思います。

「調査方法」

日本の特許法では出願から20年間、公告から15年間のいずれかの短い期間しか権利がありません。このことは最悪

図1 **United States Patent** [19]  
**Koltz**

[11] **4,403,728**  
[45] **Sep. 13, 1983**

[54] **COLLAPSIBLE GABLE TOP CONTAINER**

[76] Inventor: **Irving M. Koltz, 2085 Islington Ave., Penthouse 9, Weston Ontario, Canada, M9P 3R1**

[21] Appl. No.: **377,539**

[22] Filed: **May 10, 1982**

**Related U.S. Application Data**

[63] Continuation of Ser. No. 157,390, Jun. 9, 1980, abandoned, which is a continuation-in-part of Ser. No. 153,911, May 28, 1980, abandoned.

[51] Int. Cl. .... **B65D 5/10; B65D 5/46; B65D 25/28**

[52] U.S. Cl. .... **229/39 R; 229/52 B**

[58] Field of Search .... **229/52 B, 28 R, 6 R, 229/38, 39 R**

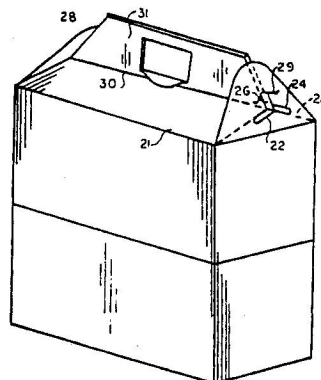
[56] **References Cited**

**U.S. PATENT DOCUMENTS**

1,982,962 12/1934 McAleer ..... 229/52 B  
2,959,337 11/1960 Crane, Jr. .... 229/52 B X  
3,096,012 7/1963 Bryant et al. .... 229/52 B  
3,150,769 9/1964 Cohn ..... 229/52 B X  
3,166,235 1/1965 Schroeder ..... 229/52 B

3,581,974 6/1971 Freeman ..... 229/52 B X  
3,640,380 2/1972 Huffman ..... 229/28 R X  
3,722,782 3/1973 Collie ..... 229/52 B X  
3,780,934 12/1973 Gardner ..... 229/52 B  
4,010,888 3/1977 Gilbert ..... 229/6 A X  
4,017,017 4/1977 Vos ..... 229/38  
4,238,069 12/1980 Morris, Jr. .... 229/52 B

*Primary Examiner—Herbert F. Ross  
Attorney, Agent, or Firm—Sheldon H. Parker*



20年前の資料（公報も含めて）は安心して利用可能であるということです。

調査方法にベストの方法はありません、というのが結論です。それは日本も米国も分類コードの信頼性が完全でないということです。そもそも発明は新規性のものであるから、その内容を分類するということは困難です。極端な場合、画期的なものは分類がない場合があります。数年して新しい分類項目に分化するのです。従って、できるだけ大きい分類項目で調査が必要です。一番良い方法は大きい項目で全部始めから総当たりというのがベストで間違いがありません。特に権利調査の場合はそれが

が必要です。日本は国際分類に移行して相当な期間になります（昭和55年より）。米国はメインの分類はあくまで自国の分類で、国際分類はサブです。

いくら勤の悪い人でも10回ぐらい始めから通して見れば頭の中に索引ができて上がります。

何かぼんやりした調査項目があれば、まず最新の公報の大きい分類で、最初から総当たりして「小当たり」してみるのが一番よいと思います。US P 229類を当たり、まず類似の公報を見付け、「REFERENCES CITED」で「孫引き」するのが一番よいと思います。

例えば、US P 229類の1983年で4403728の「ランチ・ボックス」を見付けたとします。（参照：図1）

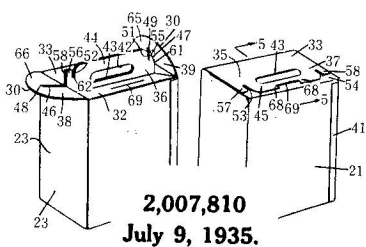
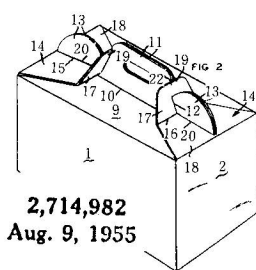
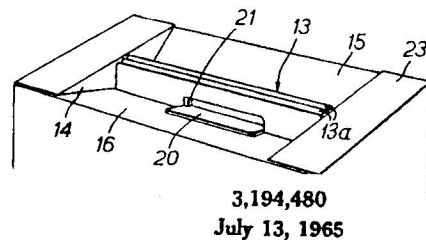
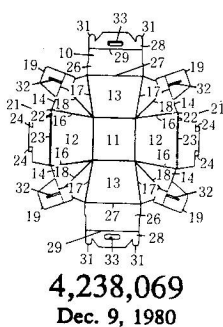
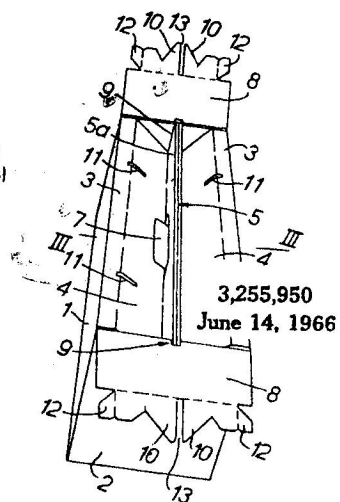
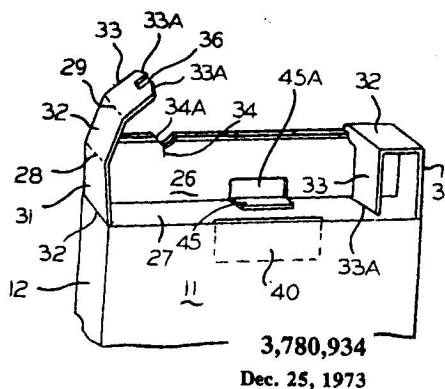
「References Cited」という項目に12点のUS P（米国特許）が記載されています。これを大きい番号（この例では4238069）からチェックします。この4238069が関連技術であれば番号を控え、その「References Cited」を同様にチェックします。これを繰り返して不要の番号を「洗い流して」いけば、たちまち「ランチ・ボックス」の

US Pが集大成できます。

以下、「ランチ・ボックス」で参考になる図面の1部を番号を付けて列挙してみました。一番古いのは1935年（昭和10年）の2007810があります。私の生まれていない時代のものです。当時の日本では紙器はキャラメル箱があったかどうか私は知りません。主流は貼箱と木箱の時代でしょう。

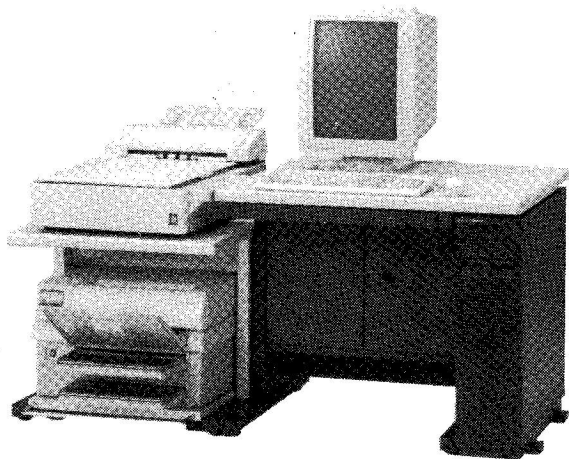
### 「光磁気ファイルの登場」

20年ほど前はこれらの公報を利用しようと思えば万国資



料館に行く必要がありました。数年前から「光磁気ファイル」というものが登場し、最近では手頃な価格になって来ました。わずか5.25インチのディスクにA4判で18,000枚も収納できるのです。図面のみであればわずか5枚で50年分の収納が可能です。一種のコンピュータですからいろいろな検索が可能です。万国資料館で製本された重い特許公報と格闘することを考えれば「テレビゲーム」の感覚で検索できます。また検索スピードも5倍以上です。USP 229類の10年分全部を見るのに約1時間です。資料館があなたの事務所に引っ越して来たと思えば良いのです。

必要であればすぐに「レーザー・プリンター」から400 DPIのきれいなハードコピーを手に入れることができます。



HITFILE 4500/30R

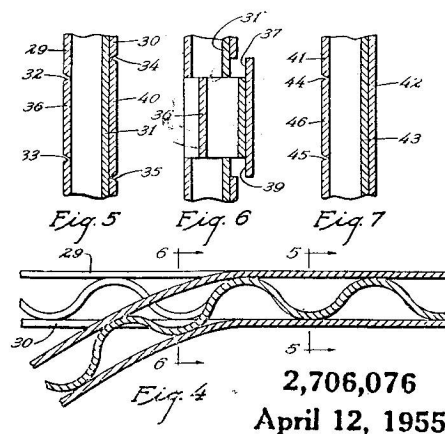
LCCでは以前ゼロックスコピーで希望者に販売していたが高価で、継続発行するには難点がありました。現在は1960年～1989年までを登録しました。年内(平成4年)に1940年～1959年までを登録するつもりです。実用システムは既に「HITFILE 6500/30R」(写真)に収納して販売されています。

### 「具体例」

以下に権利の満了したもので、十分利用可能なUSPの図面の一部を番号を付けて列挙してみました。

### 「あとがき」

才能あるパッケージ構造デザイナーの方に失礼な表現がありました。アイデアはいきなりインスピレーションで



右の広告は最近のLCCの「紙器関係・特許公報閲覧システム」商品名「知恵子」です。

この論文掲載時(1993年当時)の光ディスクはハードウェアのみで600万円もしました。今回、LCCで開発した閲覧ソフトと50年分の米国公報(USP 229類)を含めて100万円としました。

今後、他の分類、追加年度分も発売していく予定です。CAD室の片隅で見ても見なくてもスクリーンセーバーの代わりに一日中映像を流していれば、必ずヒントのものを得られます。

## 知恵子

知恵のないCADオペレータの方へ!

- ① コンピューター込みで100万円。
- ② スキャナー・プリンター・21インチモニター付。
- ③ 閲覧プログラム付。

米国満了特許「紙器構造」情報50年分の記録。

誰でも自由に使用できます。

10万ページで知恵がつかます。

1960年代の米国特許は「黄金時代」です。

思い付くのではなく「種本」があるのです。その改良の繰り返しをしている時に画期的なものも出てきます。万国資料館は新築になってから大変利用しやすくなりました。

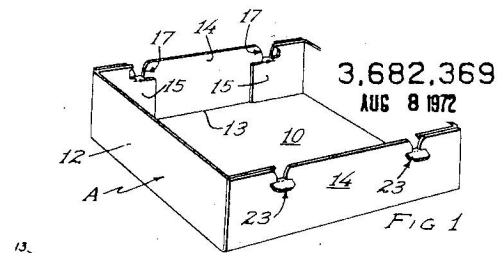
私が古い特許庁に調査に行っていた15年前はUSPは閉架式でしたので、調査に時間が掛かりました。特許公報の調査は最初は少しとまどうかもしれませんが、慣れれば楽しいものです。特に自分の見付けたものが得意先に採用さ

れると仕事冥利につきます。現在、ラップラウンド箱の一部でカットテープの代わりに裏ライナをコルゲータで帯状にカットしたものが出ていますが、これを日本に最初に紹介したのは私です。別の調査でUSPをめぐっていたときに、偶然見付けたものです。USP2706076 (1955、4/12登録)、最初は何の特許か分かりませんでした。辞書を引きながら読んでいくうちに内容が分かりビックリしまし

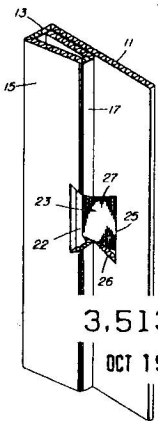
た。私は「サーチャー」にも「創造性」が必要だと思いません。少なくとも「ニーズ」を持っていないければ「発見」はできないと思います。

わたしは、これで社長賞の5万円をもらいました。その代わりにテープ屋さんにうらまれました。今でもときどき町で見るとうれしいものです。

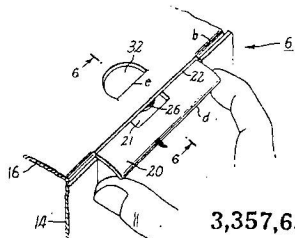
CB



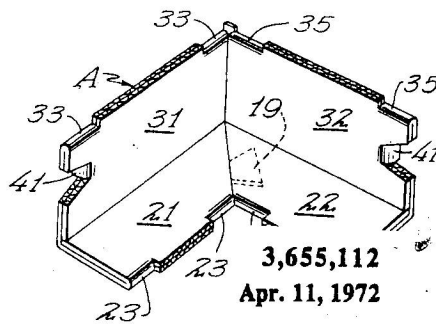
3,682,369  
AUG 8 1972



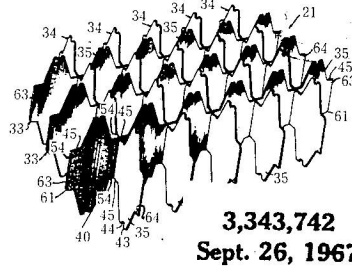
3,513,985  
OCT 19 1971



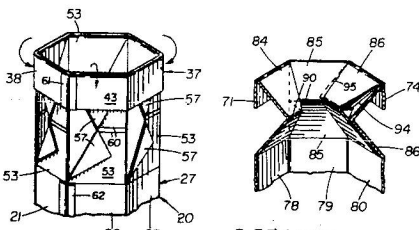
3,357,630  
Dec. 12, 1967



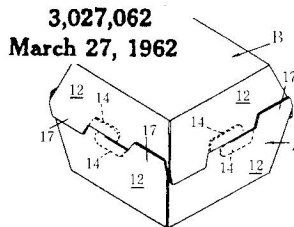
3,655,112  
Apr. 11, 1972



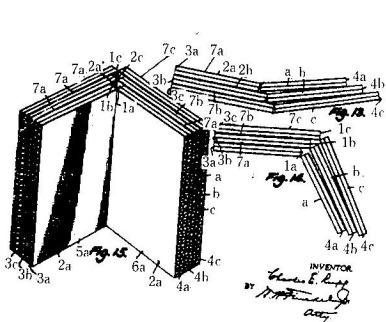
3,343,742  
Sept. 26, 1967



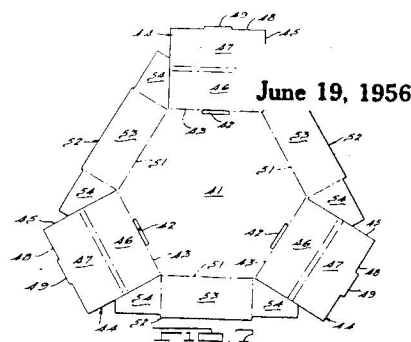
3,254,826  
June 7, 1966



3,027,062  
March 27, 1962



June 19, 1956



in

229

“ ”

1849 -2006 (157 )

49 / 40

1836

6783

USP001

1849

157

490,000

100

20

100

1

[sales@lcc-japan.co.jp](mailto:sales@lcc-japan.co.jp)

tel 03-3840-9461

/

